

健康フレフレ ますだ新聞 3月号

2020年

こんにちは！ナーシングホーム野里です♪



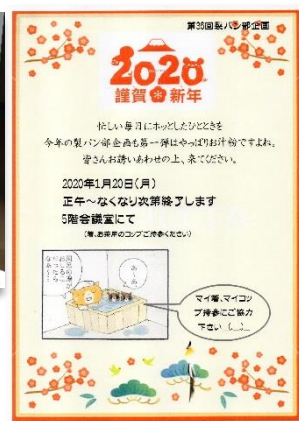
節分の2月3日は、給食で人気メニューの太巻きといなり寿司の昼食の後、毎年恒例の豆まきを楽しみました。居室とデイサービスのざとを赤鬼青鬼が訪問すると、入居者の皆さんは、「鬼は外、福は内！」のかけ声で無邪気に力いっぱい豆を撒き、1年の健康と幸福を祈りました。（ナーシングホーム野里・増田多加）



第37回 製パン部企画 職員お茶会 ～忙しい毎日にほっとしたひとときを～ ♪おしるこ食べて Happy new year ♪

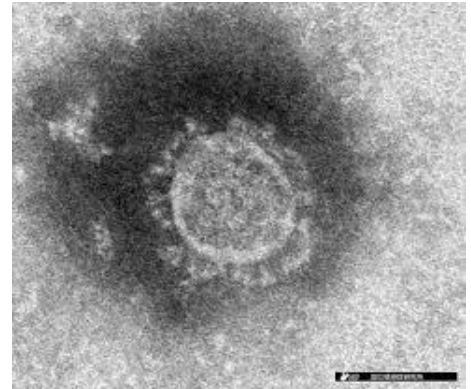


毎年恒例となった新年のおしるこ会。今年も愛情をこめてコトコト小豆を炊きました。「今年初だよ」「おいしかった」と喜んで頂けて良かったです。（製パン部）



新型コロナウイルス肺炎の話

昔は感染症のほとんどは細菌によるものでしたが、抗生物質の発達により現在はウイルス感染症が問題となることが多くなりました。ウイルスは細菌よりも小さいため通常の顕微鏡では見る事ができず電子顕微鏡によって観察が可能です。生物は1) 自己増殖力がある、2) 代謝系を有している、3) 細胞を有する、の3項目で定義付けられます。その観点からウイルスは生物ではなく半生物とする研究者もいます。ウイルスはDNA(デオキシリボ核酸)やRNA(リボ核酸)などの核酸を持っており、他の細胞に寄生してのみ増殖することができます。現在、新型コロナウイルス肺炎が問題となっています。コロナウイルスは表面に王冠(コロナ)のような突起が出ているため名付けられました。2002年にはSARS(サーズ)というコロナウイルスによる肺炎が流行しましたが、約8か月で終息しました。いずれも中国から発生しております。サーズによる死亡者数も多かったのですが、今回のコロナウイルス肺炎による死亡者数はサーズを超えており、感染者は世界各地に拡がっております。ウイルス感染症は昔から知られており、天然痘、はしか、風疹、肝炎ウイルス、インフルエンザ、普通の風邪など多岐にわたっております。風邪などは自然に治ってしまいますが、重症で死に至るものもたくさんあります。天然痘は世界中に蔓延し、死亡率が50%と大変怖い病気でしたが、ジェンナーがワクチンを開発し、1980年にはWHO(世界保健機構)が天然痘撲滅宣言をしております。しかし20世紀末からこれまで知られていなかったウイルス感染症が出現するようになりました。1981年のAIDS(エイズ)、2002年のサーズ、2009年の豚インフルエンザなどです。これらは開発が進んでアフリカや中国の奥地の動物が市場に出回ってきたことが原因と考えられています。エイズはチンパンジー、サーズはハクビシン、今の新型コロナウイルスはコウモリに寄生していたものと思われます。サーズは徹底的に患者を隔離することにより流行を抑えることができました。新型コロナウイルスを警戒することは大事ですが、感染力の強さに対し、その毒性はそれほどではなく死亡率は従来のインフルエンザ程度と推測されています。マスクが感染予防に役立つとされ、お店からマスクが消えてしまっていますが、マスクよりも手洗いがもっと効果的と考えられています。なんとか3月号発行までに流行が終息していることを願うばかりです。



コロナウイルスの電子顕微鏡像

(内科医師 山辺英彰)

お知らせ

水曜日(午後)呼吸器外来

3月 4日 田中寿志医師
3月11日 當麻景章たいま医師
3月18日 白鳥俊博医師
3月25日 白鳥俊博医師

土曜日(午前)呼吸器外来

3月 7日 當麻景章医師
3月14日 高梨信吾医師
3月21日 白鳥俊博医師
3月28日 田中寿志医師

広報部より

インフルエンザの流行は落ち着いてきましたが、新型コロナウイルスの感染を予防するために、手洗い、消毒をこまめに行うようにして引き続き気を付けましょう。

(編集 大橋)